



生物多様性広報・参画推進委員会の検討を踏まえて、生物多様性をより端的にわかりやすく表現するコミュニケーションワードが、

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

に 2008 年 11 月 21 日に決定しました。

地球の歴史上 6 度目の大量絶滅の危機といわれている現在、かつてないスピードで生物多様性が失われています。この大量絶滅から、絶妙なバランスで成り立っている生態系を守っていこう。また、未来への世代のために、現在の多様ないのちの豊かさを残していこう。「地球のいのち、つないでいこう」には、そうした思いを込めています。

今回決定したコミュニケーションワードを行政、企業、NGO、教育・学術など様々なフィールドの方々に使っていただき、生物多様性を育てていくことを促していくことで、幅広い人々に生物多様性が伝わっていくようにしたいと考えています。

「地球いきもの応援団」について

幅広く国民から生物多様性に関する認知を獲得し、具体的な行動を促すため、著名人による広報組織「地球いきもの応援団」を 2008 年 11 月 21 日に発足しました。

今後、「地球いきもの応援団」のメンバーには、生物多様性に関するイベントなどの広報活動に御協力いただくとともに、御自身の著作やマスメディアへの登場の機会を捉え、生物多様性に関するメッセージを積極的に発信していただきます。

■メンバー（2008 年 11 月 21 日現在）（敬称略、五十音順）

- ・大桃 美代子（タレント／キャスター）
- ・さかなクン（東京海洋大学客員准教授／お魚らいふ・コーディネーター）
- ・滝川クリステル（フリーキャスター）
- ・養老 孟司（生物学者／東京大学名誉教授）

なお、メンバーは今後順次増えていく予定です。

2. 自然公園法の施行状況等を踏まえた必要な措置について (中央環境審議会への諮問)

(1) 諮問の背景

- 平成14年の法改正時の自然公園法附則第2条における、法の施行（平成15年4月1日）後5年を経過した場合における必要な見直し規定への対応。
- 第3次生物多様性国家戦略（平成19年11月閣議決定）の策定及び生物多様性基本法（平成20年6月公布）の制定等、近年の生物多様性保全の観点からの施策の充実への対応。
- 自然公園事業施設の管理運営の充実を通じた質の高いサービスの実現。

(2) 検討の進め方

- 上記のような背景を踏まえて、平成20年10月7日（火）に中央環境審議会に対して諮問。
- 中央環境審議会では、自然環境部会及び自然公園のあり方検討小委員会において検討を進めており、学識経験者からのヒアリングやパブリックコメント（平成20年12月19日～平成21年1月19日）も踏まえて、近々答申をいただく予定。

(3) 検討の方向

- 国立・国定公園における生物多様性保全施策等の充実
 - ・海域保全の充実
 - ・予防的順応的な手法による生態系管理の充実等
 - ・自然公園の果たす生物多様性の保全の役割の明確化
- 風致景観の保護のための施策の充実
- 安全で快適な利用の推進の観点からの施策の充実
- その他